

第1回 防府市まち・ひと・しごと創生推進専門会議 議事録等

■開催日時・場所

平成28年5月30日（月）午前10時00分から正午まで
防府市役所1号館3階南北会議室

■次第

1. 開 会
2. 委員依頼状の交付
3. 会長、副会長の選任
4. 議 事
(1) 総合戦略に係る平成27年度の取組及び平成28年度関係予算について
5. 閉 会

■配布資料

	資料名	番号
1.	総合戦略に係る平成27年度の取組について	【資料1】
2.	重要業績評価指標（KPI）一覧	【資料2】
3.	地方創生交付金について	【資料3】
4.	平成28年度総合戦略関係予算	【資料4】

■会議風景



■出席者名簿

敬称略・順不同

	分野	所属団体・役職	名前	出欠
委員	産業	防府商工会議所 専務理事	徳永 雄	出席
		防府市農業委員会 会長	藤井 伸昌	欠席
		一般社団法人防府市観光協会 副会長	鈴木 宏明 (代理)羽嶋 秀一	代理 出席
		協和発酵バイオ株式会社 山口事業所長付 部長	田中 洋一	出席
		西日本旅客鉄道株式会社 防府駅長	岡田 裕哉	欠席
	行政	防府公共職業安定所 所長	柴野 毅	出席
		山口県民局 局長	金子 大	出席
	教育	山口大学 大学院技術経営研究科 教授	稲葉 和也	出席
		山口県立大学 国際文化学部 文化創造学科 准教授	倉田 研治	出席
		山口短期大学 児童教育学科 准教授	手島 史子	出席
		山口県立防府商工高等学校 教諭	黒川 康生	出席
	金融	株式会社山口銀行 防府支店長	中野 浩幸	出席
		東山口信用金庫 本店長	内藤 利彦	出席
	労働	連合山口県央地域協議会 委員	山根 浩二	出席
	言論	山口放送株式会社 ラジオ局長	黒瀬 哲成	出席
	住民	特定非営利活動法人 コミュニティ友志会 代表理事	松永 朋子	出席
		防府市PTA連合会 父親母親委員会	細野 美幸	欠席
		防府市自治会連合会 女性理事	石竹 和歌子	出席
	事務局	総合政策部 部長	平生 光雄	
		総合政策部 次長	伊豆 利裕	
総合政策部総合政策課 課長		白井 智浩		
総合政策部総合政策課地域創生総合戦略室 室長		齊藤 忍		
総合政策部総合政策課 課長補佐		田村 裕之		
総合政策部総合政策課地域創生総合戦略室 主任		田中 陽一		
総合政策部総合政策課地域創生総合戦略室 主任主事		藤崎 雄士		

■議事録

1. 開 会

(事務局から開会を宣言した後、総合政策部長あいさつ、並びに委員・事務局紹介)

2. 委員依頼状の交付

(委員の各席上に事前配布しており、これにより依頼状の交付とした)

3. 会長・副会長の選任

専門会議設置要綱第5条により委員による互選。

山根委員から、山口大学教授の稲葉委員を会長に、山口県立大学准教授の倉田委員を副会長に推薦する発言があり、全会一致で稲葉会長、倉田副会長を承認。

(稲葉会長は会長席に、倉田委員は副会長席にそれぞれ移動)

4. 会長、副会長あいさつ

会 長	昨年総合戦略を策定したが、色々御意見をいただき、良いものができた。県内他市、近隣都市の総合戦略と比較しても、遜色の無い非常に解りやすいものができているが、防府市民の方がどう思っているか、全国で見た場合にどうかという問題がある。健闘はしているが、もう一步頑張らないと目立たない。国の予算を活用しながら、より良い防府市を目指さなければならない。この会議で御意見をいただいて内容に修正をかけ、更に良い総合戦略を作っていきたいと考えている。
副 会 長	今年度からの就任であり、まずは「学びながら」というところはあるが、現在、大学でもキャリア教育に非常にてこ入れをしている。県立大でも部門を立ち上げて進めている。各大学でもCOCやCOC+といった動きもある。学ばせていただきながら、進められればと考えている。
会 長	本日の会議は「防府市審議会等の設置及び運営に関する要綱」に基づき、「公開」としたい。また、この会議の記録については要旨をホームページで公開したい。併せて、委員の名簿も公開する事になる。(各委員より「異議なし」) それでは、承認されたという事で進める。

8. 議事

(事務局より資料1、資料2、資料3、資料4を説明)

- 会 長 | 最初に、御説明いただいた内容についての質問を受け、色々なお立場、団体としての御意見は後にしたい。平成27年度を取組と平成28年度の関係予算、これについての御質問をいただきたい。
- A 委 員 | 資料3のこども医療費支給事業について、KPIであるアンケートの満足度が97.5%という高い結果が出ており、私の周囲でも大変満足している声を聞く。これは地方創生先行型交付金による事業となっているが、将来的に継続していくための恒久財源の工夫について考えはあるか。
- 事 務 局 | 昨年度は新たな取組として国の交付金を活用し、この事業を実施した。28年度からは交付金の財源は無いため、一般財源で継続実施していく。
- A 委 員 | 恒久的な施策としていただきたい。
- B 委 員 | 加速化交付金の内容について、高校3年生に授業で説明し、具体的な事業の進め方について考えている。新型交付金についてはどのような状況か。
- 事 務 局 | 資料3の最終ページに新型交付金の説明を掲載している。加速化交付金は単年度の国庫補助によって事業を実施するもので、平成28年3月に予算化した。新型交付金は最長5年の複数年度事業に対し1/2の補助が受けられるが、国の事業認定にあたり、官民協働、地域間連携、政策間連携といった要素が求められるため、どのように事業を組み合わせて実施すれば良いのか、交付金の活用に向けて現在検討している状況。
- B 委 員 | 新型交付金のアイデアを各課から募るという事はされているか。
- 事 務 局 | 新型交付金の情報については庁内で共有している。加速化交付金事業がひとつのモデルケースとなるため、これらの進捗も見ながら、これまでにない事業の組立てをしなければならない。
- B 委 員 | 本校に産業振興部の模擬職員が39名いるため、生徒達に産業振興部としての側面から色々企画を考えるにあたり、新型交付金が良い材料になると思っている。早く授業で説明できれば、皆さんのアイデアのお助けもできるのでは、と考えている。また教えていただきたい。
- C 委 員 | 観光プロモーション動画「タイムラプス防府」というのを作成されたようだが、今後の活用方法について教えていただきたい。

- 事務局 | 資料1の4ページに掲載しているが、この動画は、一眼レフカメラで撮影した画像をつなぎ合わせ、高画質で短時間にPRしたい観光名所、行事を一本に凝縮し、印象的にみせる新しい動画によるプロモーションツールである。現在観光協会や市などのホームページに掲載している。今年度は、東京で開催される移住ガイダンス等に、これまで以上に積極的に参加したいと考えており、そこでの活用も考えている。外国人の方に見ていただいても印象に残る動画という事で作成した。
- C 委員 | 人に広く知られないと意味が無い。SNSなどを介してたまたま観る、という人も多いと思う。ただホームページに載せるというだけでなく、見せ方、広報の工夫が必要。SNSは拡散力が強いので、工夫して効果的にPRされると良い。
また、富海地区でやっておられる藍染め体験は、「ジャパンプルー」という事で、外国人の興味も非常に強いものがあると思う。アピールする事によって外国人が富海に来れば、子供達の英語力を試す活きた英語教材にもなる。そういった循環も考えながら実施していただきたい。
- B 委員 | 昨年度予算で観光協会のウェブサイトを更新した。日本を代表するウェブデザイナーが関わっている。スマートフォンやタブレット端末に優先的に対応して表示する。
また、様々な情報に引っかかりやすいという工夫をし、タイムラプス動画にリンクを貼っている。今後の方向としては市のホームページもモバイルファーストという観点での構築が必要か考える。
- D 委員 | タイムラプス動画を作成してどうなったのか、これからどうしていかなければいけないのか、が資料からは解らない。どの項目も「どうだった」という事は書いてあるが、「どうだったので、これからこうしなければならぬ」という事が目に付かなかった。
- 事務局 | タイムラプス動画に関しては総合戦略の25ページが関係してくる。取組の47番のうち「観光を中心としたシティプロモーション」というところ。この取組をいろいろ進めていって、成果を測るのがKPIとして設定している観光客数、認知度ランキングというところ。タイムラプス動画は一つのツールであるので、その他の取組と組み合わせながらこのKPIの達成に向かって進めていきたい。
- B 委員 | 一つ一つを具体的にどうしたら良いという事を持っておられたほうが良い。「これは駄目だったからやめよう。」とか、「これはもう少し進めたほうが良い。」とか、あろうかと思うので確認していただきたい。
- 会長 | 25ページのKPI、認知度ランキングの現状が404位、平成31年の目標は意欲的な50位という設定を掲げている。ホームページにタイムラプス動画を載せるのは良いが、目標を達成するには、筋道を示し、具体的に知恵を絞らないと難しい。

E 委 員	<p>UJI ターンという用語があるが、市民の立場からすると解りにくい。U ターンは昔からあるのでイメージできる方が多いが、J ターンや I ターンについては違いが解らないという話も耳にする。UJI ターンについて解りやすく説明するお考えはあるか。</p> <p>また、孫が都会の大学に出ているが、地元就職してくれないか、都会で働いているが、防府で働いてくれないか、という話も耳にする。今外に出ていらっしゃる方が防府に戻ってこられた場合に何かメリットがあるのか、確認したい。</p>
事 務 局	<p>総合戦略では41ページに UJI ターンについて用語説明を掲載している。U ターンは出身地に戻ってくる、J ターンは出身地の近隣に戻ってくる、I ターンは出身地にかかわらず住みたい場所を選んで住む事を指す用語だが、総合戦略の基本目標としては、定着・還流・移住という広い表現とし、UJI ターンを含めて取組を強化し、推進していこうと考えている。</p> <p>防府に戻ってこられた場合のメリットについては、今年度より、移住希望者を対象に就職のマッチングをさせていただき就職相談事業、移住しようと防府を訪れた際の現地案内事業を開始し、御紹介の支援を充実させたところ。また、三世代同居の推進として、三世代住宅の新築、増改築に支援を始めたところであり、移住に併せて三世代同居を始められる場合は活用していただける。</p>
会 長	<p>この会議は今の総合戦略を1.0とすると1.5に少し改定するのか、2.0に大幅な改定をするのか、いずれにしても良くするという意味合いがある。初回なので、色々なお立場から、関連事項とか、KPI の進捗に関しての御意見など、自由にお伺いする。</p>
副 会 長	<p>デザインや情報発信方法をどうしたいのか、どの分野でも共通して具体性が見えない。ターゲットはどこで、それに対してどういったアプローチをするのか、例えば地旅については、どのセクションがどこをターゲットにしているのか。</p>
事 務 局	<p>地域ならではの体験、地域発信の旅行がニーズとしてある。地旅は、地域住民が自らガイド役となって地域ならではの体験メニューを開発するものであり、観光まちづくりのマンパワーを広げる取組を進めている。その結果を反映する KPI として、地旅参加人数を設定し、これを上昇させていきたい。</p>
副 会 長	<p>地域住民を支える側、例えばプランニングするのはどこか。</p>
事 務 局	<p>観光に関する一元化窓口として観光協会などが主体となって地域をまとめていただいている。</p>
副 会 長	<p>その情報を発信する、送り出す先はどの辺りの層か。</p>
事 務 局	<p>観光まちづくりにおいてターゲットィングも重要であり、観光客の出発地等も分析し、</p>

観光プロモーションと併せて情報発信したいと考えている。

副 会 長 | 全体的な仕組みを考えながらやっていくという事ですね。

B 委 員 | 防府市には、商工会議所と市が事務局となって、観光協会その他諸々の団体も入った組織として「観光資源活性化協議会」がある。地旅もその中のプロジェクトとしてやっている。プロモーション先は主に広島と福岡。

KPI については、取組の実施主体が当事者意識を持って目標を設定する事も必要ではないか。

先程出た UJI などの用語については、一つのアイデアとして、市の施策で難しい言葉は用語集のサイトを開設すれば親切と思う。

F 委 員 | 資料 2 の KPI 一覧で、例えば 7 番のファミリーサポートセンターの利用件数、12 番の小中学校の授業へ参画した外部人材の延べ人数、20 番の潮彩市場防府来客数などが平成 31 年の目標値に到達しているが、到達しやすかった理由があるのか。

また、平成 31 年目標値は恒久的な目標値なのか。

事 務 局 | ファミリーサポートセンターの利用件数については、会員数が増えた事に加え、留守家庭児童学級の利用者数の増加に伴う送迎での利用増などが要因と考える。

潮彩市場防府来客数については道の駅に登録された効果が非常に大きかった。

平成 31 年の目標値については恒久的なものではなく、個別に検証し、必要に応じて秋口を目途に改訂していきたい。

F 委 員 | 潮彩市場の来客数については、道の駅登録による認知が広がった効果という事で理解できる。ファミリーサポートセンターの利用件数の増加について、留守家庭児童学級の利用者数の増加が主な要因であるなら、一方で生じる家庭の問題などを考えると、単に増えたから良かったという事なのか、気になった。

G 委 員 | 各課の目標がどこまでできたかチェックして吸い上げ、その情報を基に各課がどう連携すれば良いのかを議論し、より使い勝手が良いものにしていただければ良い。

目標値の中にクルーズ船寄港回数があるが、現在、ある大型クルーズ船の誘致に取り組んでいる。実現に向け、視察に来られた方へ防府の観光地や魅力を紹介する際に具体的な事例が多いほど良い。

KPI のうち、目標値を達成しているものは更に高くするのか、或いは、別の見方からすると、本当は低いほうが良いという目標など、御意見をいただきながら、目標立てをこの会で検討する事も考えられる。

現在、全市的に「幸せます」ブランドの構築に取り組んでいるが、思いがそれぞれ違って形が統一できていない。この会議を積極的に活用しながら、それぞれの団体の中で目標値を実現していけば良いのではないかと思った。

会 長	各課の連携についてはどうか。
事 務 局	それぞれの取組には具体的な施策があり、その先に基本目標ごとの大きな目標数値がある。その目標に向かって、庁内が連携して取組を進めていきたい。
会 長	総合戦略において一番重要な項目は出生率の向上で、最終的にそこへ結び付けていく事が目標。未来の防府市を支える方達が次から次へと出てきていただかないと困る。
B 委 員	<p>加速化交付金を活用した「富海ブルーと英語教育が織りなす交流・移住・定住空間の創造事業」について、確かに英語教育の推進というのは文科省の方針としては間違いないが、英語教育というのはあくまで一つの手段であって、手段が事業名に出てくるといえるのは疑問。現在、小中学校で商工会議所による産業人育成講座を予定しており、ゆくゆくは小学校から大学まで一連の、産業人を育成する仕組づくりを目指している。こうした流れから、「産業人の育成」や「ビジネス教育の充実」を掲げ、そのひとつの手段として「ビジネス英語教育」に取り組めば、全国的にかなり注目される地域になるのではないか。</p> <p>もう一点、末田地区に日本で最後、日本に一つしかない登り窯があるが、なぜ防府市はこれを活用してまちづくりを進めようとししないのか。新型交付金の活用も考えられるのではないか。</p>
事 務 局	<p>産業教育については教育委員会に伝える。富海の事業については、小規模特認校として英語教育を中心に準備を進めてきた経緯があり、単年度事業の組立として「英語教育」を全面に出した。</p> <p>末田の登り窯が大変貴重なものである事は認識している。新型交付金の活用に関わらず、文化財としての保護を中心に、観光の視点も入れながら協議していきたい。</p>
H 委 員	資料1の1ページで「婚活イベントによるカップル成立数」が実績なしとなっているが、最近結婚に対する積極的な気持ちが少ないように感じている。結婚する人が減れば、子供が少なくなり、働く人も少なくなるので、一番気になっている。
事 務 局	資料1では「イベント実績なし」となっているが、平成27年度は予算化していなかった。平成28年度から婚活支援事業を実施する。
会 長	婚活支援事業については、効果をあげるためには工夫が必要と考える。
I 委 員	基本目標5「元みなぎるコンパクトシティの形成」に「都市核づくりに資する新庁舎等の整備」という項目が挙げられている。庁舎建設候補地を1つにまとめた案が示されたとの事で、経費や時期も含めて記事が出ていた。総合戦略としてのスケジュールと、新庁舎建設のスケジュールと、どのような関係を持ちながら進んでいくのか。

- 事務局 | 候補地を駅北に、という案が出ている。庁舎建設については個別の委員会があるため、今後議会にもお諮りしながら、詳細なスケジュールを詰めていく。
- C 委員 | 防府は良い港があり、有効活用しないともったいない。潮彩市場の来客数が増えているようだが、今、山口県で一番集客力があるのは萩の「シーマーと」で、新鮮な魚介類に加え、萩焼など、萩市の産業が大体解るといような工夫がされている。潮彩市場は山陽側の道の駅、海の駅である事を十分に認識した上で、事業を進められると良い。大型クルーズ船誘致の話があったが、観光に関して提案するものがないと素通りになってしまう。港を十分に活用していくため、どうすれば効果的に人が集められるのか、といった視点で進められると良い。
- 事務局 | 先程加速化交付金事業の中で説明したように、賑わいの創出、収益の向上に向けて、観光分野とも連携を図りながら、しっかり回遊性の向上をはかって観光客数の増加にもつなげていきたい。
- J 委員 | 若者の出会いの場の創出について、昨年も良い取組と思った。従業員に晩婚世代が多く、婚活イベントを行っているが、成果が上がらない。平成28年度の事業として、30万円×2企画で公募をするようだが、この補助金を使いやすくするためのアイデアがあればお聞きしたい。
- 事務局 | 婚活支援事業は平成28年度新規事業で、ある程度の規模のイベントを募集するという形にしている。それぞれの企業で独自に取り組まれている現状を現場に伝え、可能であれば参考までにお伺いし、御意見をいただきたい。
- J 委員 | 参加者の年齢層に幅があるとギャップを生み、成果が上がらない要因になる事もある。ニーズを把握してから事業を実施されると良いのではないかと。
- 副会長 | 全体を通して思ったが、ユーザー、参加者からの情報をバックするような数字があると非常に考えやすくなる。恐らく各部局で「どういった情報源でこれを知りましたか」というようなアンケートは行っているのではないかと。その数字を基にすれば施策を考えやすくなり、効果的な情報発信やプロモーションを検討しやすくなる。事業所管課や各団体がデータを持っている可能性があるため、活用できると良い。
- B 委員 | 昨年、中国運輸局の事業で「防府観光地魅力向上のための支援調査事業」という調査事業を行った。その中で「どこで防府の情報を知りましたか」、「防府のどこに魅力を感じられますか」といった項目を調査している。問題は、調査結果がシームレスに共有されない点。早く様々な部署で共有し、検証作業をされると良い。
- 会長 | 本日の会議はこのあたりで終了したい。今日多くの資料が提供されたので、持ち帰っ

て御覧いただければ、様々な御意見が出てくると思う。次回という事でお考えいただきたい。防府市での総合戦略の取組は、本格的なスタートは本年度からという事。この会議による取組内容の検証を踏まえ、PDCA サイクルによって修正をかけ、推進を図っていききたい。それでは会議を終了し、進行を事務局にお返しする。

事務局 | 本日いただいた貴重な御意見については、関係部署と充分共有し、取組に反映させていきたい。

閉会